

# 里山で暮らす

小山 友誉（こやま ともたか）

# 経歴（東京）

---

- 1978東京都練馬区田柄生まれ
- 高卒 私立城北高校
- ガソリンスタンド 4年
- 大学受験予備校講師、精神衛生カウンセラー、営業 3年
- フリーター2年（倉庫・コンサート・葬儀など）
- スノーボードを持って車で放浪 3年
- 上高地の西糸屋山荘アルバイト 1シーズン夏
- 越後湯沢のマンション 1シーズン冬

# 経歴（十日町）

---

- 地域おこし協力隊3年2010.7-2013.3
- 新聞配達員10年目～
- 2013～中間支援組織設立8年目
- 2016～アウトドア会社設立4年目
- 2019～農業法人設立2年目



# 地域おこし協力隊の果たした役割

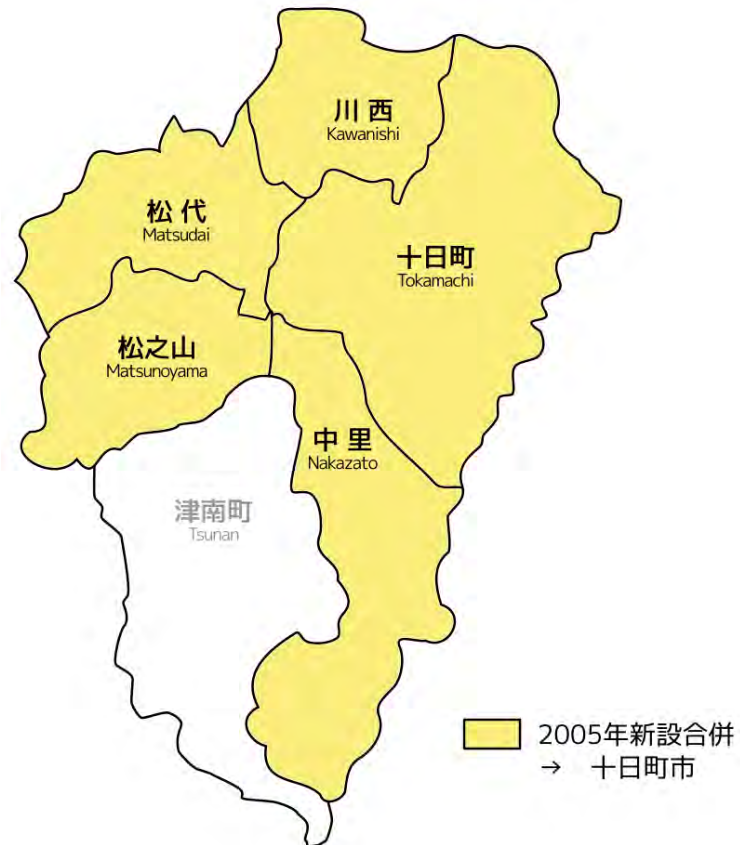
---

## 市内

- 59人退任
- 42人定住
- 定住率71%

## まつだい

- 13人退任
- 11人定住
- 定住率84%



# 地域おこし協力隊の果たした役割

---

市内の配属どんな場所か

- 高齢化率ほぼ100%の場所に配属
- 若い人が居るだけで、地域住民が意味もなく安心するような地域
- もともと芸術祭で若い人を受け入れ慣れていた
- 芸術祭の若手と協力隊の違い（次項の問題意識へつながる）

# 地域おこし協力隊の果たした役割

---

「芸術祭の若手」と「協力隊」の違い

芸術祭 ➡ 都会から来て都会へ帰るスタッフ

協力隊 ➡ 同じ場所に住んで帰らないスタッフ

# 地域おこし協力隊の果たした役割

---

都会へ帰ってしまう人がする仕事の例

※中越大震災復興支援事業

各集落へ1000万円（集落デザイン策定事業）

- 必ずコンサルタント会社へ400万残りの600万で事業
- 事業が途中で投げ出されているか、そのように見える状況がある（ハードが終わらない等）

# 地域おこし協力隊の果たした役割

---

なぜ無責任な仕事ができるか？ ➡ 住んでないから

住むことってそんなに重要なのか？

# 地域おこし協力隊の果たした役割

---

## 住んで無い人は無責任

※地方創生的大義名分は素晴らしい

- 会社の儲けのために地方を利用
- 東京の自分（会社）さえ良ければよい
- 都会の会社と行政のお金のやり取りに地域の人間は無関係
- 都会の会社や人と地域が一体となった活動は存在しなかった

# 地域おこし協力隊の果たした役割

---

住んでる人（協力隊）は？

- 自分だけ生きていても生きていけない
- 常に評価され批判や称賛の対象
- 苦楽を共にすることで地域と二人三脚
- 地域の人を本気にさせる原動力

※住まなければ理解できない事柄が多すぎる

# 地域おこし協力隊の果たした役割

---

## 結論

- ・人が外から来ることは良いことだという感覚生み出した
- ・地域を背負う若手を作り出した

# 日々の活動

---

※農業は空気を吸うことと同じ (田んぼ8,000㎡、畑2,000㎡)

- 新聞配達
- アウトドアガイド (ラフティング・スノーシュー・バックカントリーなど)
- アウトドアの会社 (お店・ロケーションコーディネート・体験コーディネート)
- 協力隊サポートの会社 (協力隊研修、直接支払制度事務、学校給食地産地消推進)
- 地域団体 (不要杉の有効利用)

# 日々の活動

---

- ・ニーズに応える  
皆さんが田舎でやりたいと思うことを実現させる
- ・里山保全  
ブナ林を守る➡水を守る➡農業を守る

# 日々の活動

---



# 日々の活動



# 日々の活動



# 日々の活動

森を守る=水を守る=米、野菜を育む⇒すべてつながる里山の暮らし的なお話をさせていただきました。



# 日々の活動

---



# 日々の活動

---



# 日々の活動

---



# 日々の活動

---



# 日々の活動



# 問題意識

---

## 地方自治体

- 良い制度、政策、補助金はある
- 地域はまったく使いこなせない
- 地方自治体の腕の見せ所
- 一人の職員ができることに限界がある
- 国の補助金を得るための、市と県の対話の

# 問題意識

---

## 環境面

- ・意外と農薬、排気ガス

## 仕事面

- ・ほぼ治外法権（善し悪し）
- ・声の大きい人が威張る（実力と地域の信頼を伴わない場合あり）

## 生活面の情報がほぼ出ていない

- ・お金がそんなになくても生きていける  
（生きるために蓄積されたノウハウは誰にも奪われない）
- ・田舎は仕事が無い ➡ ウソ
- ・スローライフ（手間をかける暮らし）はビジーライフ

# 問題意識（重要）

---

## 耕作放棄と逸材の喪失



放棄される棚田と弱る耕作者

耕作者は古き良き（苦しいことも含めて）日本を知る人物たち  
それらを受け継ぐことができれば我々は永遠に本当の日本の  
暮らしを失ってしまうのでは・・・

# なぜ色々やってるか？

---

- 思ったことが実現できる
- 小さなことの実態が良くわかる
- 成功すれば、身の回りの人の笑顔が見られる
- 失敗してもまた立ち上がれる雰囲気がある

# どんな仕組みが欲しい？

---

- リスクを抱えて向き合ってチャレンジできる仕組み
- やった事実があれば、お客さんの満足度や成果にかかわらず補助金出すようなことを一切やめる
- 国の直轄の助成金の仕組み

# これから・・・

---

棚田、食べ物、豪雪、人が繋いだ文化、いいものはたくさんある。

それを繋ぎたい。

仕組みもある。

居ないのは・・・人

最新技術を使い、適材適所で。

